

令和7年度埼玉県地盤沈下対策調査専門委員会 議事要旨

日 時	令和8年2月6日（金） 10:00～11:30
場 所	埼玉県庁環境部会議室（さいたま市浦和区高砂3丁目15-1）（オンライン併用）
委 員 名	佐藤委員長、長田委員、徳永委員、吉岡委員、八戸委員、井上委員 ※守田委員は欠席
関係機関	さいたま市 1名

議題(1) 令和6年地盤沈下調査結果について

事務局から資料1を用いて令和6年地盤沈下調査等について説明を行った。

質疑及び意見の概要は以下のとおり。

	質問・意見	説明・回答
1	<p>（徳永委員）</p> <p>資料1 P16～P19 各観測所の地盤変動量と地下水位のグラフを見ると、地盤変動量は年間を通して収縮や膨張など変化しているのに対し、地下水位は変化が見られないという結果となっている。</p> <p>この辺りについて、どのように理解、若しくは評価されようとしているか伺いたい。</p>	<p>（事務局）</p> <p>この点について、解析や検証といったものはできていない状況である。</p> <p>考えられる事象などについて、ご助言いただけるとありがたい。</p> <p>（徳永委員からの助言）</p> <p>簡単には分からないとは思いますが、まず初めに、実測値の変動量と月毎の地下水位の変化量についてクロスプロットし、そういうことがよく起こる地域なのか、一般的な関係とずれているのかを見てみるとよい。</p> <p>（佐藤委員長）</p> <p>所沢は礫層が多く、地下水位の変動もあるが、それ以上に地盤変動に敏感な土地である。</p> <p>また、鷲宮は、地盤変動に連動していない帯水層で地下水位を観測している。</p> <p>中川水系と所沢のあたりは特殊な地域である。</p>
2	<p>（長田委員）</p> <p>資料1 P7 の変動量別地点数分布状況の図を見ると、R5年とR6年とで変動量の分布が大きく違っている。</p> <p>数年単位や10年位で見た時、年によって、この変動の分布が変わることがあり得るのか、お聞きしたい。</p> <p>何年か分を累積で重ね合わせてグラフ化する</p>	<p>（事務局）</p> <p>5年から10年の変動の比較はしていないが、傾向から見ると、隆起傾向がある年と、沈下傾向がある年が繰り返しているイメージがある。今後、検証したいと考える。</p> <p>（徳永委員）</p> <p>他県の事例で、水準測量で沈下が大きく出</p>

	と、分かりやすいと思う。	<p>た年の翌年は、沈下量がとても少ない、という結果を何度も見ている。</p> <p>衛星による測地やGNSS測量といった、水準測量以外の方法で地盤変動を見ているもの比較してみるのもよいと思う。</p> <p>(佐藤委員長)</p> <p>水準測量は、測量誤差や他県の測量結果と接合を行うことなどから、2cm以下の測量結果はあまり意味を持たないと考える。</p> <p>(堀口課長)</p> <p>調査結果は毎年報告書として詳細にまとめており、昭和の時代からの推移なども掲載している。</p> <p>引き続き結果を注視しながら、委員の皆様からの意見も踏まえ、まとめ方などについても相談させていただきたいと考えている。</p>
3	<p>(吉岡委員)</p> <p>地下水の採取量は、経年変化を見ると減少しており、地下水採取量の目標値とほとんど同じ状態にある。</p> <p>県としては、今後、工業用水等を全て県水(表流水)に置き換えていくといったような計画はあるのか。</p>	<p>(事務局)</p> <p>県水の関係は他部局で対応しているため、状況を確認し、後日回答させていただく。</p> <p>(佐藤委員長)</p> <p>地下水位は、上昇すればよい、というものではない。ある程度の水位で押さえておかないと液状化現象を引き起こす場合もある。</p> <p>水収支が非常に重要である。</p> <p>県で、地下水利用のガイドラインの作成を検討するのであれば、その点も記載すべきと考える。</p>
議題(2) その他		
<p>事務局から、①地盤沈下対策に係る国の動向についての情報共有、②資料2への意見照会、③参考資料3について情報共有を行った。</p> <p>質疑及び意見の概要は以下のとおり。</p>		
	質問・意見	説明・回答
1	<p>(佐藤委員長)</p> <p>参考資料3の国の渇水対策本部の臨時会は、令和7年9月に開催されているが、その後の渇水の状況について、情報はあるか。</p>	<p>(吉原副課長)</p> <p>荒川水系の4つのダムの貯水率は38%(平年比66%)、利根川水系の9つのダムの貯水率は43%(平年比82%)となっており、渇水が続いていると考えてよいかと思う。</p>

		<p>(佐藤委員長)</p> <p>参考資料3に、利根川水系のダムの貯水量と経年変化の関係を示した図があるが、平成6年や令和7年あたりの貯水量1.5億トン位になっている。</p> <p>貯水率が1.5億トンを割ると、埼玉県の場合、広域水道は使用できなくなり、地下水に頼るしかなくなるため、今のまま雨が降らないと地盤沈下が起こると考えられる。</p>
--	--	--